

今月号のお知らせ内容

① 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認（第101回、第102回）

② 2020年度の訓練実績

～トピックス～
発電所の竜巻対策

① 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認

当社が実施している安全性向上対策工事が計画通り行われていることを、月1回程度の頻度で点検および確認いただいております。

第101回（3月19日）

-----点検項目-----

非常用ガス処理系（※1）および中央制御室換気空調系（※2）の予備フィルタの配備状況

- ※1 事故の際、放射性物質が直接大気中へ漏れることを防止する設備
- ※2 発電所の運転・監視をおこなう中央制御室の給排気を調整する設備



粒子状の放射性物質を
99%以上捕集できる

フィルタ 点検の様子

第102回（4月28日）

-----点検項目-----

フィルタベント設備室素置換用の可搬型素素ガス発生設備（※3）の設置状況

- ※3 重大事故時に原子炉で発生する水素による爆発を防止する設備
今回は、この設備のうち遠隔手動操作装置等についてご確認いただいた

原子炉建屋に入れない状況でも、
屋外から遠隔操作が可能



遠隔手動操作装置

点検の様子

② 2020年度の訓練実績

原子力災害を想定し、さまざまな訓練を繰り返しおこなっています。

総合訓練（2回）

発電所外との連携や対応手順の確認をおこなうため、発電所、本店、静岡支店などが参加する大規模な訓練



シミュレータ訓練（約200回）

運転員の技能向上のためシミュレータを用いる訓練



個別訓練（約700回）

実際の設備を使う現場訓練やリーダークラスが机上で災害対応における指揮・命令をシミュレーションする訓練



外部機関との連携訓練（6回）

原子力災害に備え、行政等と連携した訓練



（例）御前崎市、御前崎海上保安署、御前崎市消防本部、菊川警察署との連携訓練

～トピックス～ 発電所の竜巻対策

5月1日、牧之原市にて竜巻とみられる突風が発生しました。被災された皆さまには改めてお見舞い申し上げます。

発電所では、さまざまな自然災害を想定し対策をおこなっています。今回は、竜巻による飛来物により設備の機能を損なわないよう実施した工事を紹介します。

原子炉建屋



<強化した点>

- ・扉をより強固な鋼材に
- ・厚みを増す



海水取水ポンプやその周辺の配管



<強化した点>

- ・周囲を鉄板で覆う
- ・上部には防護金網を設置

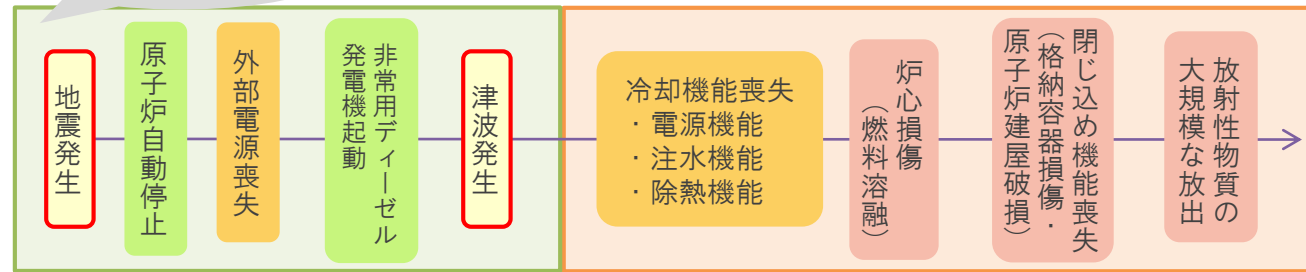


発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



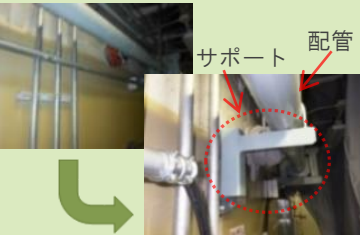
発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海拔22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】

冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。
また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

電源機能強化	恒設	可搬
	 ガスタービン発電機 高台40m地点から電気を供給	 交流電源車 恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備
注水機能強化		 可搬型注水ポンプ車
除熱機能強化		 可搬型取水ポンプ車

緊急時淡水貯槽
高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

フィルタベント設備
格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。



放水砲設備
原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。
対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間
365日体制

緊急時に特化した
幅広い対応力



役割
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応

(現在18名)

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



＜取得免許例＞
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年600回程度)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリング
ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。
また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。